

ようぼく子弟初出場

東京の安藤 麻選手



東洋大学3年生の安藤麻選手（21歳・撫養大教会ようぼく、弥さんの長女）写真）が平昌五輪「アルペン・女子回転」に出場。同競技の日本勢としては、トリノ大会以来12年ぶりの五輪出場を果たした。

北海道出身の安藤選手は、兄・佑太朗さん（23歳）と共に2歳からスキーを始めた。小・中学校では旭川市のクラブチームに所属。中学卒業後、スキーの名門・北照高校へ進学し、国内外の大会で優勝するなど優

秀な成績を収めた。また、3年生のときには全日本スキー連盟の強化選手に選ばれ、自身が目標としていた「FISワールドカップ」（主催：国際スキー連盟）のアルペンに初出場した。

同大進学後は、昨年1月に各国の学生代表が競う「ユニバーシアード2017」の「スーパードル」で銅メダル、「大回転」で金メダルに輝いた。

さらには今年1月、オリンピック直前にオーストリアで行われた、アルペンスキーの世界最高峰の「ワールドカップ」開幕戦で、並み居るヨーロッパのトップ選手に交じって24位に食い込み、五輪代表に選出され



アルペン・女子回転に3大会ぶりの日本勢出場を果たした安藤選手（写真は五輪前の競技中の様子）

た。

ヨーロッパが本場の同競技。日本人はもとより、アジア出身の選手が世界大会で活躍することは稀なことから、アジア圏のアルペンスキー界を担うホープとして注目を集めてきた。

強気の攻めと、鋭いターンを持ち味としている。五輪に向け、課題とするスタートからの加速に重点を置いてトレーニングを重ね、滑りに磨きをかけてきた。

「4年に一度のまたとない機会。楽しんでリラックスしつつ、強気にコーナーを攻めていきたい」と意気込

んで迎えた当日。大歓声のなか、安藤選手は勢いよくスタート。第1ゲージの通過タイムは上位に食い込んだものの、第2ゲージの直前、板がずれたことから大幅にコースを外れ、1回目ですら途中棄権となった。

佑太朗さんと共に応援に駆けつけた母・奈保子さん（50歳・撫養大教会ようぼく）は「大会直後、娘はすべてを出しきったような爽やかな笑顔で、応援してくださった方々にお礼の言葉を述べていた。『4年後の北京五輪に向けて、できるすべての準備を、いまから始めたい』と力強く話す娘を見て、この大会で得たものはとても大きかったと思う」と語った。